令和３年度　土地活用ハンズオン支援事業

宮城県東松島市「官民連携による観光農園を中心とした移転元地の利活用の推進」

目的・背景

移転元地と民有地が混在する地区において、「令和の果樹の花里づくり」構想の実現に向けた方策を検討

- 特別名勝松島内にある約25haのエリアで、土地活用がなされないまま外来種等雑草の繁茂や不法投棄などによって景観が損なわれている。
- 市では「令和の果樹の花里づくり」構想を検討してきたが、これまでは庁内検討に留まっており、様々な方々のアイディアの導入や合意形成、市と連携して取組を進めるプレイヤーの確保等を進めていくことが必要。

位置図

航空写真

取組とその効果

1　全国のまちづくり事例の収集や、移転元地の利活用に向けた今後の取組の『ロードマップ』を作成。

2　様々なプレイヤーを巻き込みながら官民連携により取組を進めるため、まちづくりに造詣の深いコーディネーターを確保し、その協力のもと、関係者の勉強会の開催により、アイディア出しやプレイヤーの発掘を進めるなど、官民連携による取組体制を構築し、具体的な検討を推進（今後は関係者のプラットフォームになる「ワーキンググループ」に発展予定）

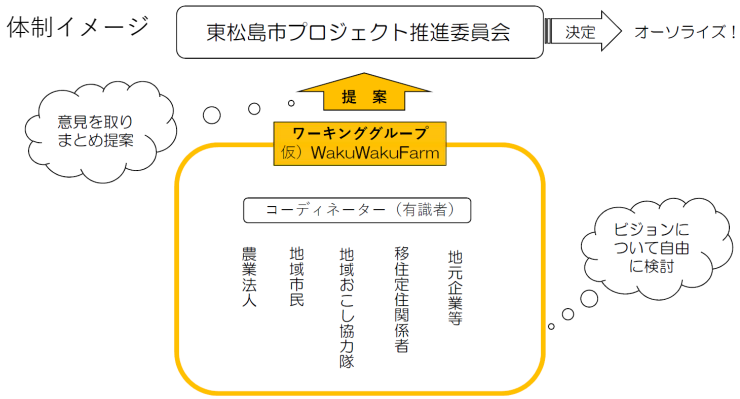
取組の様子

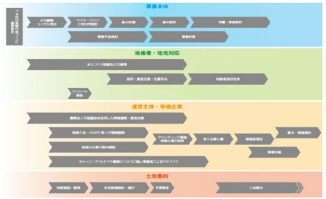
取組経過

６～１０月　ロードマップの検討など、取組の実現に向けた方策を検討し、その推進にあたっては　市のみならず、地域の方々や民間事業者等の様々な関係者と連携（官民連携）して進めていく方針とした。

１０～２月　「ワーキンググループ」の立ち上げに向けて、官民の取組をコーディネートしていただける人材の確保や、関係者での勉強会を実施。

取組成果イメージ





ロードマップのイメージ

勉強会成果

今後の方向性

今後、ワーキンググループ（官民連携プラットフォーム）を立ち上げるとともに、現地での社会実験も交えつつ、地区の将来像や利活用の方策等を定める官民連携ビジョンの策定等を進める。